

2012 謹賀新年

大阪国際交流センター・ラジオクラブ

大空に舞う

私は貴女からみなぎる力をいただいた
今年も大きく飛び出して力強く羽ばたこう



Canon EOS 50D EF14mm F2.8 1/800 F16

「解説」この写真はありのままの瞬間を「ONE SHOT」で写しとめたものです。すなわち、夏空に3匹の蝶が絡み合っている場面そのものです。多くは1匹のメスを求めてオス達が追従している場合が多いようです。かつての自分の行動に重ね合わせて胸キュン、、、そんな歳でもないですかね。編集氏AOPさんから、これは多重撮影か？とのご質問がありました。違います。3匹は全く別の蝶で、「SINGLE SHOT」撮影です。しかし、最近では毎秒数十コマで撮影し、カメラがその中から数コマを選んで合成写真をカメラ内で即座に作るようなメカを搭載したものがあるようです。私は未だそのようなカメラを手にしたことはありませんが、「SINGLE SHOT」感覚で撮れば多重撮影と同様の画像が瞬時に出来上がるのですからカメラの世界も大変な変わりよう？ TECHNIQUEのいない時代に突入しているのでしょうか。

JH3AEF 東條 純一

第39回SEANETコンベンション in Brunei (その2)

JA3AER 荒川泰蔵

前号からの続きで、写真の番号もその続きとしていますが、CQ誌2012年1月号にも記事を掲載していただきましたので合わせてご覧ください。

尚、CQ誌には2013年に日本で開催する予定の第41回SEANETコンベンションもサポートしていただくことにしています。

コンベンション2日目の18日(金)は通信省の長官を招いてオープニングセレモニーが開かれた。開会前にコンベンションの事務局長であるV85TL, Tamatさんがテレビ局の取材に応じていた(写真19)が、その後海外からの参加者にもインタビューをしていた。オープニングはお祈りの後(このお祈りは、その後も行事の度に行われた)、BDARAの会長V85DX, Sallehさんの歓迎の挨拶で始まり(写真20)、来賓である通信省の長官Dato Paduka Haji Awg Alaihuddin bin Pehin Orang Kaya Digadong Seri Laila Dato Seri Utama Haji Awg Mohamad Taha氏(称号も含めて非常に長い名前である。この国のアマチュア無線家達の名前も長いものであるが、この記事ではハンドルと思われる名前を記している。間違っている場合はお許し願いたい)が、壇上で銅鑼を叩いて公式な開会とした(写真21)。散会后、会場に用意されお茶やケーキのリフレッシュメントを楽しみながらの歓談や、小グループの写真撮影などで賑わいが続いた(写真22)。昼食は全員近所のインドネシア・レストラン(Pondok Sari Wangi Restaurant)に案内され、帰途商店街を散策した。



写真 19

写真 20

写真 21



写真 23



写真 22



午後からはマイクロバスに分乗してウォーターフロントに出かけたが、このころから外出は国別に集められ、案内役やマイクロバスが指定された。これは2年前の韓国での迷子事件の教訓から学んだものと思われるが、日本人はV85HF, Faridahさんの案内でNo.2のマイクロバスに乗ることになった(写真23)。ウォーターフロントでは国王の遺暦の記念モニュメント6年ほど前に建てられたもので、アラビア語で60という数字をデザインしたものだそうだが建てられた公園で記念のグループ写真を撮影した(写真24)。その前後は暑い日差しの中で思い思いの記念撮影をしていたが(写真25)、その後20人程度が乗れるボートで水上から街やマングローブなどの森林、それに対岸のWater Village(水上の村)を見学し(写真26)、更にその水上の村に上陸して、そこにあるKampong Ayerの文化と観光のギャラリーを含む村の見学をした(写真27)。



写真 24



写真 25



写真 26



写真 27

休憩所で伝統的な食べ物や飲み物の接待を受けたりして写真28)、水上家屋で生活する人たちの暮らしぶりを垣間見ることができるこの場所は、観光地の一つになっているらしく、たまたま、日本の東南アジア青年の船でここを訪れていたビルマ人を含む東南アジアの若い人たちとも出会い、歓談することができた(写真29)。

夕刻には一旦ホテルに戻って休憩後、再び水辺のレストラン (Port View Restaurant) に出かけて歓迎の夕食会が開かれたが、既に各国の参加者の国際交流が進み、お互いが打ち解けて歓談している様子だった。丁度この日は米村さんの誕生日だったらしく特別にお祝いのケーキが運ばれた(写真30)。



写真 28



写真 29



写真 30

3日目の19日(土)は熱帯雨林の国立公園(Ulu Temburong National Park)の見学だった。前日から長時間の船旅とジャングルを長く歩き、階段をいくつも上らねばならないと脅かされていたので、スポーツシューズを買い、酔い止め薬を飲んで出かけた(この酔い止め薬は日本で買って持参したトラベルミンの一種で、1錠で1日効くと買ったものであったが、酔わなかったものの眠気と足のふらつきなど気分が良くなり行動が制限された)。シューズを買いに連れて行ってくれた V85BD, Johnnyさんは、森には蚊もいるからと親切に予防のためのチューブ入りの塗り薬を買ってくれた(予防薬と刺されたあとの対処薬が分類して棚に並べられていた。これは参加者と共有したが、蚊がいなかったのか、薬の効果があつたのか刺されることはなかった)。ウオーターフロントから20人ほど乗れるモーターボートで約1時間、両岸にマンングローブやパーム椰子などが生い茂る川を遡り、国立公園の入り口に到着した(写真31)。そこから更に小型バスで奥地に進み、Sumbring Eco Villageに到着したが、自然の中でエコな生活している人たちがいた。ここから更に数人乗りの小型のモーターボートで狭くなった川を遡るのだが、筆者を含め体力に不安のある20人ほどはそこにとどまり、近くの村のロングハウス(昔ながらの高床式の長屋)とその生活を見学した(写真32)。小型のモーターボートで出かけた一行(写真33)は、上流の熱帯雨林に入り階段や吊り橋を渡って、キャンピーと呼ばれる鉄塔に登り、熱帯雨林を上から俯瞰したそぶり(写真34)。これが今回の旅行のハイライトであっただけに、行けなかった人たちは残念な思いだった。熱帯雨林の見学を終えて戻ってきた人たちと合流し、休憩所が準備してくれた昼食を済ませ、再びモーターボートでウオーターフロントへ帰ってきた。ホテルに戻り、しばしの休憩で疲れを癒して、コンベンションのハイライトである晩餐会(ガラナイト)に臨んだ。

写真 31

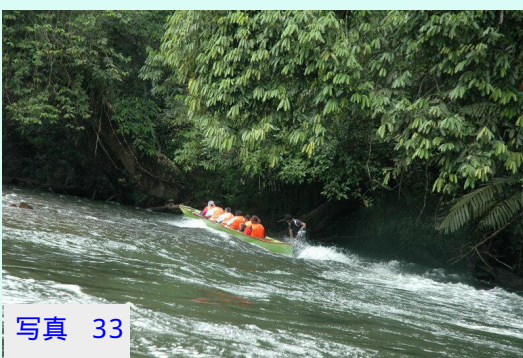
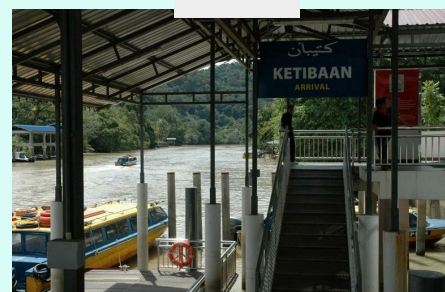


写真 33



写真 32



写真 34

晩餐会には民族衣装など思い思いの服装で集ってきて、賑やかな歓談と思い思いの撮影会が始まった(写真35)。メインテーブルにはゲストとしてAITI(Authority for Info-communications Technology Industryの略で、アマチュア無線局の管理も行っている)の代表が招かれていた。日本人のグループと食事を共にと思って席を選んでいたら、日本のグループの代表としてメインテーブルに座るよう誘いが来た。メインテーブルは2つ用意されていたが、AITIの代表Mr. Osman Radisを挟んでV85AB, Abuさんご夫妻とV85DX, Sallehさんご夫妻が席に着いたテーブルに案内された。このテーブルには去年のコンベンションを主催した上海の代表としてBG4AAA, Guさんと通訳のSWL, Zhang Leiさん、一昨年に主催したソウルのDS1BOX, Choさん、HL1KDW, Chaeさんご夫妻、それに来年度主催予定のKLの代表として9M2RS, Rashidさんが招かれていた(写真36)。あとで考えると、ここでもその次の開催地として日本を狙っていたのかも知れない。晩餐会はSEANETコンベンション組織委員長でもあるV85DX, Sallehさんの歓迎の挨拶で始まり(写真37)、舞台では民族舞踊で歓迎してくれた(写真38)。続いてSEANETコンテストの入賞者の表彰が行われたが、日本からの入賞者は無かった(筆者を含めJAからは5局がログを提出していた)。そこで食事をしながらの歓談が始まり、続いてのお土産お交換では、BDARAから各国の代表に記念の盾(写真39)とBDARAのパナー、参加者全員に参加証(写真40)が贈られ、各国からもプレゼントが手渡された。日本からはJA4DPL吉房さんが持参した cometのアンテナ・アナライザー CAA-500をクラブへとして寄贈した(吉房さんは、このCAA-500の設計に参加している)。引き続き、スポンサーやボランティアなどの協力者に感謝状が贈られ、再び民族ダンスが披露された後、恒例の国別のパフォーマンスが始まった。オーストラリア、オーストリア、中国、ドイツ、とアルファベツ順に進んで、日本からはJE3BEQ宮本さんが指揮をして日本の歌、「花」と「上を向いて歩こう」を全員で合唱し(写真41)、JA9AG吉井さんが「黒田節」の剣舞を披露した(写真42)が、続く韓国の華やかな民族衣装でのパフォーマンスは、中でも際立っていた(写真43)。マレーシア、フィリピン、セルビア、スイス、米国と進んだが、今年はバンコクの洪水の影響で、タイからの参加者が無かったのは淋しかった。最後の主催国ブルネイのパフォーマンスでは、いつの間にか参加者全員が輪になって躍り出し(写真44)、それを最後にガラナイトは終了した。(次号につづく)



写真 35



写真 36



写真 37



写真 38

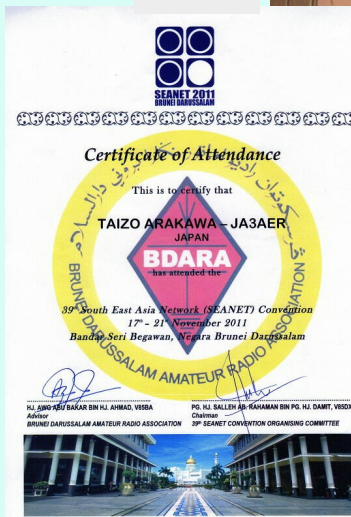


写真 40



写真 39



写真 41



写真 42



写真 43



写真 44

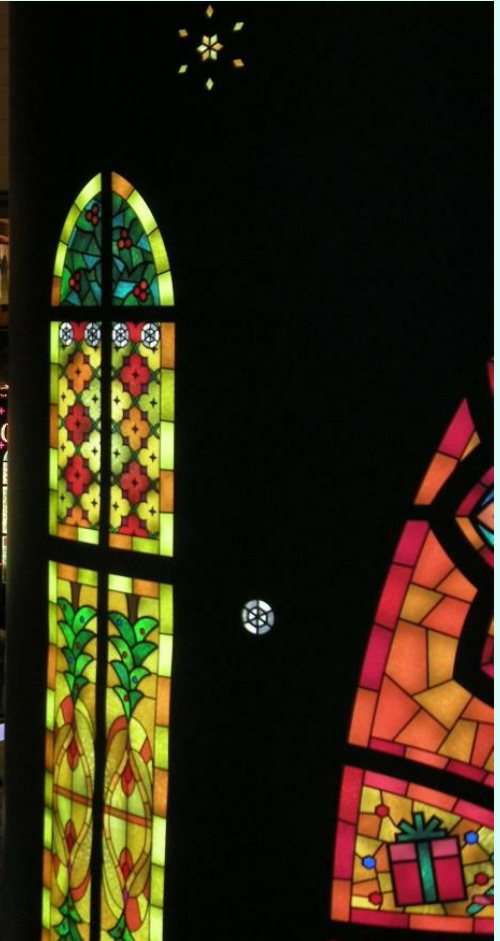
注 写真はJA5EVQ, JA4DPL, JE3BEQ, JK3IYB, JO3TIC, JL1XWR, 7K3EOP, HL1KDWから頂いた写真も使用しています

シャッターチャンス

NAMBA GALLERIA CHRISTMAS 2011

JK3IYB 西 彰

南海電車の難波駅改札口を出て、
階段を下りてゆく前面の壁面と階
段途中の円柱の電飾です。



撮影：
2011年12月14日
夕方

カメラ：
NIKON Coolpix



大阪国際交流センター・ラジオクラブ
J13ZAG